

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																
(2) 機械共通事項	特記項目において選択する事項は、●印のついたものを適用する。	○ばい煙濃度計	・○ 設ける	6. 給水設備		(4) その他事項																																																																																	
1. 保温工事	<p>・標準仕様書第2編第3章によるほか下記による。</p> <p>・標準仕様書第2編第3章の各表において保温材を選択できるものについて、特記なき場合、グラスウールとし、多湿箇所、水掛かり部分及び屋外については、ポリスチレンフォームとする。</p> <p>・特記なき場合、配管及びダクトの保温外装は下記による。</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">ダクト</td> <td>屋内露出</td> <td>倉庫・書庫</td> <td>● アルミガラスクロス</td> <td>○ カラー亜鉛鉄板</td> </tr> <tr> <td>屋外露出</td> <td>居室・廊下など</td> <td>● カラー亜鉛鉄板</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">配管</td> <td>多湿箇所()</td> <td>倉庫・書庫</td> <td>● ステンレス鋼板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋外露出</td> <td>居室・廊下など</td> <td>● アルミガラスクロス</td> <td>○ 合成樹脂製カバー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管</td> <td>多湿箇所()</td> <td>機械室</td> <td>● アルミガラスクロス</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>居室・廊下など</td> <td>● 合成樹脂製カバー</td> <td>○ 保温化粧ケース(冷媒管)</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>屋外露出</td> <td>● ステンレス鋼板</td> <td>○ 保温化粧ケース(冷媒管)</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>多湿箇所()</td> <td>● ステンレス鋼板</td> <td>○ 保温化粧ケース(冷媒管)</td> </tr> </table> <p>(注) 保温化粧ケースは、塩化ビニル樹脂製とする。</p> <p>(学校、幼稚園、病院、介護・療養施設などの露出部分は、合成樹脂製カバー(ジャケットタイプ)を使用する。)</p>	ダクト	屋内露出	倉庫・書庫	● アルミガラスクロス	○ カラー亜鉛鉄板	屋外露出	居室・廊下など	● カラー亜鉛鉄板		配管	多湿箇所()	倉庫・書庫	● ステンレス鋼板		屋外露出	居室・廊下など	● アルミガラスクロス	○ 合成樹脂製カバー	管	多湿箇所()	機械室	● アルミガラスクロス			居室・廊下など	● 合成樹脂製カバー	○ 保温化粧ケース(冷媒管)			屋外露出	● ステンレス鋼板	○ 保温化粧ケース(冷媒管)			多湿箇所()	● ステンレス鋼板	○ 保温化粧ケース(冷媒管)	<p>○ ばいじん量測定口</p> <p>○ 煙道</p> <p>○ ダクトの種類・工法</p> <p>○ ダクトの分岐方法</p> <p>○ 風量測定口</p> <p>○ チャンバー</p> <p>○ ダンパー</p> <p>● 配管材料 (図面特記分は除く)</p> <p>○ 鋼管用伸縮管継手</p> <p>○ 防塵籠手</p> <p>○ フラッシュポイント</p> <p>● 保温及び消音 内貼り</p> <p>● 機器の振れ止め</p> <p>○ 報告書の提出</p>	<p>○ 別途</p> <p>○ 鋼板厚 (○ 3.2mm ○ 4.5mm)</p> <p>○ 低圧ダクト (○ コーナーボルト工法 (長さの長さが1500mm以下の部分) ○ アングルフランジ工法)</p> <p>○ 高圧ダクト (○ コーナーボルト工法)</p> <p>○ 折り込み工法</p> <p>○ 直付付工法</p> <p>○ 送風機吐出ダクト又は吸込みダクト</p> <p>○ 外気取入れダクト</p> <p>○ 空調機出口チャンバーの分岐ダクト)</p> <p>・内貼りを施すチャンバーの表示方法は外法を示す。</p> <p>・空気調和機、温風暖房機に取り付けるサプライチャンバー、レタンチャンバー及び風道系で消音内貼りしたチャンパーには、点検口を設ける。(点検口の大きさは図示による。)</p> <p>・外面に面するガラリに直付のチャンパー及びヒッホパーは雨水の滞留のないよう施工すること。</p> <p>・防塵ダンパー 復帰方式 (○ 遠隔 ○)</p> <p>・定格入力値はD C 24 V、0.7 A以下とする。</p> <p>・ピストンダンパー 復帰方式 (○ 遠隔 ○)</p> <p>・冷温水管: ● 配管用炭素鋼鋼管(白) ○ 配管用亜鉛めっき鋼管</p> <p>・冷却水管: ○ 配管用炭素鋼鋼管(白)</p> <p>○ 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VA) 又は 水道用ポリ塩化ビニル管 (SGP-PA)</p> <p>・ドレン管: ○ 配管用炭素鋼鋼管(白) ● 硬質塩化ビニル管</p> <p>・給水管: ○ 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管</p> <p>○ 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VA) 又は 水道用ポリ塩化ビニル管 (SGP-PA)</p> <p>・冷媒管: ○ 断熱材被覆鋼管 (断熱厚さは液管10mm以上 (液管呼び径が9.52mm以下は8mm)、ガス管20mm以上)</p> <p>○ 弁類</p> <p>・JIS又はJV (○ 5K ● 10K (図示部分))</p> <p>・口径50A以上のバルブはバタフライバルブ (本体:アルミ製 弁体:ステンレス製) とする。</p> <p>○ 鋼管用伸縮管継手</p> <p>○ ベローズ型 ○ スリプ型 (図示部分)</p> <p>○ 防塵籠手</p> <p>○ 合成ゴム製 ○ ベローズ型 (図示部分)</p> <p>○ フラッシュポイント</p> <p>○ ベローズ型 ○ 合成ゴム製 (図示部分)</p> <p>・標準仕様書第2編3.1.4によるほか、下記による。</p> <p>・下記のダクトは保温を行う。</p> <p>○ 通りダクト及びチャンパーボックス (保温の厚さ25mm)</p> <p>○ 外気ダクト及びチャンパーボックス (保温の厚さ25mm)</p> <p>・膨張タンクよりボイラ等への補給水管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の冷水・冷温水管の項による。</p> <p>・建物内の空気抜き管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の冷水・冷温水管の項による。</p> <p>・空気調和機及びファンコイルユニットの排水管の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の排水及び通気管の項による。</p> <p>・標準仕様書による。</p> <p>・フロア類を冷媒等に使用する空調機器の新設・撤去に伴い、冷媒整備報告書、フロン類充填・回収報告書、再生証明書・破壊証明書、工程管理表等を作成し、提出すること。</p> <p>○ 満水試験継手</p> <p>○ 4in1材料ため樹</p>	<p>○ 給水設備概要</p> <p>・給水引込管: φ (○新設 ○既設)</p> <p>・○水道直結方式 ○高圧タンク方式 ○ポンプ直送方式 ○タンクレスプースターポンプ方式</p> <p>・○不要 ○要 (○本工事 ○別途)</p> <p>○配管材料</p> <p>・一般配管: ○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 ○水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VA)</p> <p>・地中配管: ○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 ○水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VD)</p> <p>○水道用ポリエチレン二層管 (呼び径50以下) ○水道用ポリエチレン管</p> <p>給水引込管: ○水道用ポリエチレン二層管 (呼び径50以下) ○ダクタイル鑄鉄管</p> <p>○弁類</p> <p>・JISまたはJV 水道直結部分 (○ 10K) その他部分 (○ 5K ○ 10K)</p> <p>・口径50A以上のバルブはバタフライバルブ (本体:アルミ製 弁体:ステンレス製) とする。</p> <p>またバタフライバルブを埋設使用する場合は、センターハンドル式とする。</p> <p>・親メーター (○貸与品) ・子メーター (○買取品(○水道事業者指定 ○標準図) ○貸与品)</p> <p>・親メーター (○水道事業者指定 ○標準図) ・子メーター (○水道事業者指定 ○標準図)</p> <p>・検査項目: ○遊離残留塩素濃度</p> <p>○特定建築物 16項目 (一般細菌・大腸菌・亜硝酸態窒素・硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素</p> <p>・塩化物イオン・有機物 (全有機炭素の量) ・pH値・味・臭気・色度・濁度</p> <p>・鉛及びその化合物・亜鉛及びその化合物・鉄及びその化合物</p> <p>・銅及びその化合物・蒸発残留物</p> <p>○学校 校園 9項目 (一般細菌・大腸菌・塩化物質・有機物 (全有機炭素の量) ・pH値・味・臭気・色度・濁度)</p> <p>○その他 11項目 (一般細菌・大腸菌・亜硝酸態窒素・硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素</p> <p>・塩化物イオン・有機物 (全有機炭素の量) ・pH値・味・臭気・色度・濁度)</p> <p>○学校プール 7項目 (pH値・大腸菌・一般細菌・有機物等・濁度・総トリハロメタン・循環ろ過装置の出口の濁度)</p> <p>・検体数: ○遊離残留塩素濃度... 2検体</p> <p>○16項目... 検体 ○9項目... 1検体 ○11項目... 検体 ○7項目... 検体</p> <p>・検査箇所: ○受水槽 ○調理施設水栓 ○プール槽(循環ろ過装置の出口) ○監督員の指示する箇所</p>	<p>1. 配管工事の試験</p> <p>・配管の試験は、配管途中若しくは掘削後、埋戻し前又は配管完了後の塗装又は保温施工前に行う。</p> <p>・給水管等の試験は下表の通り行うものとする。なお、下表に記載無き配管の試験については、監督員と協議して決定する。</p> <table border="1"> <tr> <th>試験対象部位</th> <th>適用</th> <th>試験方法</th> <th>試験圧力</th> <th>圧力保持時間</th> </tr> <tr> <td>給水管 (直圧部)</td> <td>新設配管</td> <td>水圧</td> <td>1.75MPa</td> <td>60分</td> </tr> <tr> <td>給水管 (直圧部)</td> <td>既設配管接続後</td> <td>水圧</td> <td>0.75MPa</td> <td>60分</td> </tr> <tr> <td>給水管 (加圧部)</td> <td>新設配管及び既設配管接続後</td> <td>水圧</td> <td>全揚程の2倍 0.75MPa未満の場合0.75MPa</td> <td>60分</td> </tr> <tr> <td>揚水管 (加圧部)</td> <td>新設配管及び既設配管接続後</td> <td>水圧</td> <td>全揚程の2倍 0.75MPa未満の場合0.75MPa</td> <td>60分</td> </tr> <tr> <td>給水管 (高圧タンク以下)</td> <td>新設配管及び既設配管接続後</td> <td>水圧</td> <td>静水頭に相当する圧力の2倍 0.75MPa未満の場合0.75MPa</td> <td>60分</td> </tr> <tr> <td>給湯管 (直結型機器の2次側)</td> <td>新設配管及び既設配管接続後</td> <td>水圧</td> <td>0.75MPa</td> <td>60分</td> </tr> <tr> <td>給湯管 (貯湯型機器の2次側)</td> <td>器具取付後及び既設配管接続後</td> <td>水圧</td> <td>0.3MPa</td> <td>60分</td> </tr> <tr> <td>消火管 (屋内消火栓)</td> <td>新設配管及び既設配管接続後</td> <td>水圧</td> <td>消火ポンプ締切圧力の1.5倍</td> <td>60分</td> </tr> </table> <p>・給水管等の器具等接続部における漏れ試験は、器具等をすべて接続した後に水圧試験にて行うこと。</p> <p>・試験圧力及び圧力保持時間は上表による (但し、試験圧力は0.75MPaを上限とする)。</p>	試験対象部位	適用	試験方法	試験圧力	圧力保持時間	給水管 (直圧部)	新設配管	水圧	1.75MPa	60分	給水管 (直圧部)	既設配管接続後	水圧	0.75MPa	60分	給水管 (加圧部)	新設配管及び既設配管接続後	水圧	全揚程の2倍 0.75MPa未満の場合0.75MPa	60分	揚水管 (加圧部)	新設配管及び既設配管接続後	水圧	全揚程の2倍 0.75MPa未満の場合0.75MPa	60分	給水管 (高圧タンク以下)	新設配管及び既設配管接続後	水圧	静水頭に相当する圧力の2倍 0.75MPa未満の場合0.75MPa	60分	給湯管 (直結型機器の2次側)	新設配管及び既設配管接続後	水圧	0.75MPa	60分	給湯管 (貯湯型機器の2次側)	器具取付後及び既設配管接続後	水圧	0.3MPa	60分	消火管 (屋内消火栓)	新設配管及び既設配管接続後	水圧	消火ポンプ締切圧力の1.5倍	60分
ダクト	屋内露出		倉庫・書庫	● アルミガラスクロス	○ カラー亜鉛鉄板																																																																																		
	屋外露出	居室・廊下など	● カラー亜鉛鉄板																																																																																				
配管	多湿箇所()	倉庫・書庫	● ステンレス鋼板																																																																																				
	屋外露出	居室・廊下など	● アルミガラスクロス	○ 合成樹脂製カバー																																																																																			
管	多湿箇所()	機械室	● アルミガラスクロス																																																																																				
		居室・廊下など	● 合成樹脂製カバー	○ 保温化粧ケース(冷媒管)																																																																																			
		屋外露出	● ステンレス鋼板	○ 保温化粧ケース(冷媒管)																																																																																			
		多湿箇所()	● ステンレス鋼板	○ 保温化粧ケース(冷媒管)																																																																																			
試験対象部位	適用	試験方法	試験圧力	圧力保持時間																																																																																			
給水管 (直圧部)	新設配管	水圧	1.75MPa	60分																																																																																			
給水管 (直圧部)	既設配管接続後	水圧	0.75MPa	60分																																																																																			
給水管 (加圧部)	新設配管及び既設配管接続後	水圧	全揚程の2倍 0.75MPa未満の場合0.75MPa	60分																																																																																			
揚水管 (加圧部)	新設配管及び既設配管接続後	水圧	全揚程の2倍 0.75MPa未満の場合0.75MPa	60分																																																																																			
給水管 (高圧タンク以下)	新設配管及び既設配管接続後	水圧	静水頭に相当する圧力の2倍 0.75MPa未満の場合0.75MPa	60分																																																																																			
給湯管 (直結型機器の2次側)	新設配管及び既設配管接続後	水圧	0.75MPa	60分																																																																																			
給湯管 (貯湯型機器の2次側)	器具取付後及び既設配管接続後	水圧	0.3MPa	60分																																																																																			
消火管 (屋内消火栓)	新設配管及び既設配管接続後	水圧	消火ポンプ締切圧力の1.5倍	60分																																																																																			
2. 塗装工事	<p>・屋内、屋外を問わず、保温を行わない鋼製の露出配管・ダクトは塗装を行う。</p> <p>ただし、(○ピット内 ○パイプシャフト内 ○機械室内 ○天井内 ○屋上) は除く。</p>	<p>○ 鋼管用伸縮管継手</p> <p>○ ベローズ型 ○ スリプ型 (図示部分)</p> <p>○ 防塵籠手</p> <p>○ 合成ゴム製 ○ ベローズ型 (図示部分)</p> <p>○ フラッシュポイント</p> <p>○ ベローズ型 ○ 合成ゴム製 (図示部分)</p>	<p>7. 排水設備</p> <p>○ 排水設備概要</p> <p>・建物内汚水・雑排水 (○分流 ○合流)</p> <p>・建築物放流水 汚水: ○公共下水道直放流 ○し尿浄化槽</p> <p>雑排水: ○公共下水道直放流 ○し尿浄化槽</p> <p>○負担金</p> <p>・○不要 ○要 (○本工事 ○別途)</p> <p>○配管材料 (図面特記分は除く)</p> <p>・屋内汚水管: ○排水・通気用耐火二層管 ○呼び径硬質塩化ビニル管三層管 (呼び径内)</p> <p>○硬質塩化ビニル管 ○排水用硬質塩化ビニル管</p> <p>・屋内雑排水管: ○排水・通気用耐火二層管 ○呼び径硬質塩化ビニル管三層管 (呼び径内)</p> <p>及び通気管 ○硬質塩化ビニル管 ○排水用硬質塩化ビニル管</p> <p>○配管用炭素鋼鋼管(白)</p> <p>・屋外配管: ○硬質塩化ビニル管 (VP) ○硬質塩化ビニル管 (VU) (樹間)</p> <p>○図示の箇所に取り付ける。</p> <p>○小口径マス (塩ビ製) ○コンクリート製</p> <p>・鋼のコンクリート部は工場製品としてもよい。</p> <p>・耕畜の表面には、「汚水」、「雑排水」等の用途を示す文字入れを行うこと。</p>	<p>(5) 補足事項</p> <p>*使用しながらの工事なので、工事工程は発注者と協議の事</p>																																																																																			
3. はつり工事	<p>・既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。</p> <p>なお、復旧はモルタル補修とするが、仕上げは原形復旧とする。</p> <p>はつり穴開けの施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。施工場所を鉄筋探査機により探査し、鉄筋・配管類の位置に差出しを行う。放射線透過検査については監督員の指示によるものとし、費用は本工事に含む。</p>	<p>○ 機器の振れ止め</p> <p>○ 報告書の提出</p>	<p>8. 給湯設備</p> <p>○ 給湯設備概要</p> <p>・○中央式 (○電気 ○ガス) ○局所式 (○電気 ○ガス)</p> <p>○配管材料 (図面特記分は除く)</p> <p>○鋼管(M) ○外面被覆鋼管 ○水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管</p> <p>○架橋ポリエチレン管 ○ポリブテン管 ○ステンレス鋼管 ()</p> <p>・JISまたはJV (○5K ○10K(図示部分))</p> <p>・口径50A以上のバルブはバタフライバルブ (本体:アルミ製 弁体:ステンレス製) とする。</p> <p>・膨張管及びボイラーへの補給水管の保温は標準仕様書第2編3.1.4の冷水・冷温水管の項による。</p> <p>給湯機器排気管はP S内についても保温を行う。(仕様は隠蔽部排気管に準ずる)</p>																																																																																				
4. 埋設標示 (排水管を除く)	<p>・地中埋設標 ○要 (図示の箇所) ○不要</p> <p>・埋設標示テープ ○要 ○不要</p>	<p>○ 機器の振れ止め</p> <p>○ 報告書の提出</p>	<p>9. 消火設備</p> <p>○ 消火設備概要</p> <p>・○屋内消火栓 ○スプリンクラー (○開放型 ○閉鎖型) ○泡消火 ○不活性ガス消火</p> <p>○連絡送水管 ○連絡給水 屋外消火栓</p> <p>○配管材料 (図面特記分は除く)</p> <p>・一般配管: ○配管用炭素鋼鋼管(白) ○圧力配管用炭素鋼鋼管 (sch-40)</p> <p>・地中配管: ○消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (OSGP-VS ○STPG 370 VS)</p> <p>・屋外露出配管は保温を行う。(標準仕様書第2編3.1.5の給水管の項による)</p> <p>・消火用掃給水栓: (○保温型 ●保温不要)</p> <p>○別途工事 ○本工事</p>																																																																																				
5. アンカーボルト	<p>・屋外及び便所、厨房等の多湿箇所ならびに床下ピットにて使用するアンカーボルトはステンレス製又は、溶融亜鉛めっき製とする。(あと施工アンカーを含む)</p>	<p>○ 機器の振れ止め</p> <p>○ 報告書の提出</p>	<p>10. 液化石油ガス設備</p> <p>○ ガス設備概要</p> <p>・○液化石油ガス</p> <p>○配管材料 (図面特記分は除く)</p> <p>・一般配管: ○配管用炭素鋼鋼管(白) ○合成樹脂被覆鋼管</p> <p>・地中埋設配管: ○ポリエチレン管</p>																																																																																				
6. 支持金物	<p>・特記なき場合、屋外及び便所、厨房等の多湿箇所ならびに床下ピット、スラブ下埋設配管にて使用する支持架台は、ステンレス製又は溶融亜鉛めっき製とする。また、同様の場所にて使用するボルトナット、ワッシャー、ビス、吊ボルト等もステンレス製又は溶融亜鉛めっき製とする。なお、容易に手の届く場所に取付ける金物類等は、その端部を養生 (樹脂製キャップ等) すること。</p> <p>・シール材は変成シリコンシーリング材 (MS-2) を使用すること。</p> <p>(壁面に取付ける場合は下面を除く方シーリングとする。)</p>	<p>2. 換気設備</p> <p>○ ダクトの種類・工法</p> <p>・○低圧ダクト (○コーナーボルト工法 (長さの長さが1500mm以下の部分) ○アングルフランジ工法)</p> <p>○高圧ダクト (○アングルフランジ工法)</p> <p>○硬質ポリ塩化ビニル管 ○スパイラルダクト</p> <p>・厨房系統の長方形排気ダクトは共通仕様書より一番手厚いものを使用する。</p> <p>○ 風量測定口</p> <p>・取付位置は (○図示した位置 ○遠心送風機吐出ダクト又は吸込みダクト ○外気取入れダクト) とする。</p> <p>○ ダンパー</p> <p>・空気調和設備の当該項目による。</p> <p>○ 排気ダクトのシール</p> <p>・厨房、浴室等 (シャワー室、脱衣場を含む) の多湿箇所のダクトはシールを行う。</p> <p>○ チャンバー</p> <p>・空気調和設備の当該項目による。</p> <p>○ 保温</p> <p>・空気調和設備の当該項目によるほか下記による。(保温の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による)</p> <p>○空調を行う室 (○外気取入れ用ダクト ○排気用ダクト (外壁から1m))</p> <p>○全熱交換ユニット (○外気取入れ用ダクト ○排気用ダクト (外壁から1m) ○給気用ダクト)</p> <p>○調理場・厨房等 (○外気取入れ用ダクト ○排気用ダクト (外壁から1m))</p> <p>○換気用ダクト (保温厚さ50mm (RW)、範囲は図示による))</p>	<p>○ 機器の振れ止め</p> <p>・標準仕様書による。</p>																																																																																				
7. 建物内埋設配管	<p>・建物内スラブ下埋設配管はスラブ等から支持を行うこと。また、特記なき場合の支持間隔は隠蔽配管に準ずる。</p>	<p>3. 換気設備</p> <p>○ ダクトの種類・工法</p> <p>・○高圧1ダクト ○高圧2ダクト (※いずれもアングルフランジ工法とする)</p> <p>○ 鋼板厚 ○ 亜鉛鉄板</p> <p>○ 排気口</p> <p>・形 状: ○スリットフェース型 ○パネル型 ○ダンパー型</p> <p>・作 動: ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動 ○中央遠隔操作</p> <p>・復帰装置: ○手元復帰式 (○手動式 ○電気式) ○遠方復帰式</p> <p>・ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。</p> <p>○ 排煙風量測定</p> <p>・建築設備定期検査業務基準書 (日本建築設備昇降センター) の排煙風量の検査方法に準ずる。</p>	<p>○ 機器の振れ止め</p> <p>・標準仕様書による。</p>																																																																																				
8. 土留め施工	<p>・地盤 (砂からなる地山及び崩壊しやすい状態になっている地山を除く) を掘削する場合、労働安全衛生法、建築基準法等の関係法令を遵守すること。また、掘削の深さが2.0mを超える場合には土留工を施すものとし、土留については原則としてアルミ鋼矢板 (水圧式パイプサポート) とする。なお、掘削を行ったところ砂からなる地山及び崩壊しやすい状態になっていることが判明した場合については、監督員に報告し、監督員の指示を受けると。</p>	<p>4. 自動制御設備</p> <p>● 中央監視制御装置</p> <p>○ 中央監視制御装置の構成・機能</p> <p>○ 塗装工事</p> <p>・屋内、屋外を問わず、鋼製の電線管・ボックスは塗装を行う。</p> <p>ただし、(○ピット内 ○パイプシャフト内 ○天井内 ○機械室内) は除く。</p>	<p>11. 厨房機器設備</p> <p>○ 厨房機器設備概要</p> <p>・図示による。(ただし、寸法は参考とする。)</p> <p>・熱源: ○ガス (○都市ガス ○液化石油ガス) ○電気</p>																																																																																				
9. 防火区画貫通	<p>・防火区画貫通部分の配管・ダクト等は、建築基準法施行令第112条15項に基づき施工のこと。</p>	<p>5. 衛生器具設備</p> <p>○ 小便器用節水装置</p> <p>・○手動 ○自動 (○個別感知 ○集合感知)</p> <p>○フラッシュ (○埋込 ○露出)</p> <p>※集合感知の場合はカウンタ不足を補償するタイマー機構を設ける。</p> <p>○ 大便器</p> <p>・○洋風便器 (○普通便座 ○温水洗浄便座) (○ふた有り ○ふた無し) ○和風便器</p>	<p>12. し尿浄化槽設備</p> <p>○ し尿浄化槽 設備概要</p> <p>・形 式: ○合併槽 () ○小規模合併槽 ()</p> <p>・処理対象人員: 人槽 m³/日</p> <p>・放流水質: BOD ppm以下</p>																																																																																				
10. 他工事又は他工種との取合い	<p>・図面に記載のない場合は原則として下記標準工事区分表による。</p> <p>標準工事区分表 (取合い区分欄は、原則●印の区分とする。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工 事 項 目</th> <th rowspan="2">機械</th> <th rowspan="2">建築</th> <th rowspan="2">電気</th> <th rowspan="2">ガス</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>外 気</th> <th colspan="2">屋 内</th> </tr> <tr> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏 期</td> <td>35.4 °C</td> <td>49.0 %</td> <td>28 °C</td> <td>50 %</td> <td>°C %</td> </tr> <tr> <td>冬 期</td> <td>2.0 °C</td> <td>57.9 %</td> <td>19 °C</td> <td>40 %</td> <td>°C %</td> </tr> </tbody> </table> <p>備考: 湿度制御を行わない空調方式による湿度は成り行きとする。</p>	工 事 項 目	機械	建築	電気	ガス	備考	外 気	屋 内		温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	夏 期	35.4 °C	49.0 %	28 °C	50 %	°C %	冬 期	2.0 °C	57.9 %	19 °C	40 %	°C %	<p>○ 機器の振れ止め</p> <p>○ 報告書の提出</p>	<p>○ 機器の振れ止め</p> <p>○ 報告書の提出</p>																																																									
工 事 項 目	機械							建築	電気	ガス	備考																																																																												
		外 気	屋 内																																																																																				
温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)																																																																																		
夏 期	35.4 °C	49.0 %	28 °C	50 %	°C %																																																																																		
冬 期	2.0 °C	57.9 %	19 °C	40 %	°C %																																																																																		
(3) 設備科目別仕様	特記項目において選択する事項は、●印のついたものを適用する。	<p>1. 空調調和設備</p> <p>● 空調調和設備概要</p> <p>・方 式: ●空気調和 ○冷暖房</p> <p>○空気調和機 ○FCU ●FCU・ダクト併用方式 ○パッケージ方式</p> <p>・熱 源: ○ボイラー ○温水発生器 ○冷温水発生器 ○冷凍機 ○EHP ○GHP ○水蓄熱</p> <p>・制御方式: ●電気式 ○電子式 ○デジタル式</p> <p>・燃料等: ○都市ガス ○電気 ○灯油 ○A重油 (1号)</p> <p>● 設計温湿度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">外 気</th> <th colspan="2">屋 内</th> </tr> <tr> <th colspan="2">一 般 系 統</th> </tr> <tr> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏 期</td> <td>35.4 °C</td> <td>49.0 %</td> <td>28 °C</td> <td>50 %</td> <td>°C %</td> </tr> <tr> <td>冬 期</td> <td>2.0 °C</td> <td>57.9 %</td> <td>19 °C</td> <td>40 %</td> <td>°C %</td> </tr> </tbody> </table> <p>備考: 湿度制御を行わない空調方式による湿度は成り行きとする。</p> <p>○ 空調能力表示</p> <p>・パッケージ型空調調和の空調能力表示については、JIS B 8616、8627による。</p>		外 気	屋 内		一 般 系 統		温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	夏 期	35.4 °C	49.0 %	28 °C	50 %	°C %	冬 期	2.0 °C	57.9 %	19 °C	40 %	°C %	<p>6. 給水設備</p> <p>○ 給水設備概要</p> <p>・給水引込管: φ (○新設 ○既設)</p> <p>・○水道直結方式 ○高圧タンク方式 ○ポンプ直送方式 ○タンクレスプースターポンプ方式</p> <p>・○不要 ○要 (○本工事 ○別途)</p> <p>○配管材料</p> <p>・一般配管: ○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 ○水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VA)</p> <p>・地中配管: ○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 ○水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VD)</p> <p>○水道用ポリエチレン二層管 (呼び径50以下) ○水道用ポリエチレン管</p> <p>給水引込管: ○水道用ポリエチレン二層管 (呼び径50以下) ○ダクタイル鑄鉄管</p> <p>○弁類</p> <p>・JISまたはJV 水道直結部分 (○ 10K) その他部分 (○ 5K ○ 10K)</p> <p>・口径50A以上のバルブはバタフライバルブ (本体:アルミ製 弁体:ステンレス製) とする。</p> <p>またバタフライバルブを埋設使用する場合は、センターハンドル式とする。</p> <p>・親メーター (○貸与品) ・子メーター (○買取品(○水道事業者指定 ○標準図) ○貸与品)</p> <p>・親メーター (○水道事業者指定 ○標準図) ・子メーター (○水道事業者指定 ○標準図)</p> <p>・検査項目: ○遊離残留塩素濃度</p> <p>○特定建築物 16項目 (一般細菌・大腸菌・亜硝酸態窒素・硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素</p> <p>・塩化物イオン・有機物 (全有機炭素の量) ・pH値・味・臭気・色度・濁度</p> <p>・鉛及びその化合物・亜鉛及びその化合物・鉄及びその化合物</p> <p>・銅及びその化合物・蒸発残留物</p> <p>○学校 校園 9項目 (一般細菌・大腸菌・塩化物質・有機物 (全有機炭素の量) ・pH値・味・臭気・色度・濁度)</p> <p>○その他 11項目 (一般細菌・大腸菌・亜硝酸態窒素・硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素</p> <p>・塩化物イオン・有機物 (全有機炭素の量) ・pH値・味・臭気・色度・濁度)</p> <p>○学校プール 7項目 (pH値・大腸菌・一般細菌・有機物等・濁度・総トリハロメタン・循環ろ過装置の出口の濁度)</p> <p>・検体数: ○遊離残留塩素濃度... 2検体</p> <p>○16項目... 検体 ○9項目... 1検体 ○11項目... 検体 ○7項目... 検体</p> <p>・検査箇所: ○受水槽 ○調理施設水栓 ○プール槽(循環ろ過装置の出口) ○監督員の指示する箇所</p>	<p>7. 排水設備</p> <p>○ 排水設備概要</p> <p>・建物内汚水・雑排水 (○分流 ○合流)</p> <p>・建築物放流水 汚水: ○公共下水道直放流 ○し尿浄化槽</p> <p>雑排水: ○公共下水道直放流 ○し尿浄化槽</p> <p>○負担金</p> <p>・○不要 ○要 (○本工事 ○別途)</p> <p>○配管材料 (図面特記分は除く)</p> <p>・屋内汚水管: ○排水・通気用耐火二層管 ○呼び径硬質塩化ビニル管三層管 (呼び径内)</p> <p>○硬質塩化ビニル管 ○排水用硬質塩化ビニル管</p> <p>・屋内雑排水管: ○排水・通気用耐火二層管 ○呼び径硬質塩化ビニル管三層管 (呼び径内)</p> <p>及び通気管 ○硬質塩化ビニル管 ○排水用硬質塩化ビニル管</p> <p>○配管用炭素鋼鋼管(白)</p> <p>・屋外配管: ○硬質塩化ビニル管 (VP) ○硬質塩化ビニル管 (VU) (樹間)</p> <p>○図示の箇所に取り付ける。</p> <p>○小口径マス (塩ビ製) ○コンクリート製</p> <p>・鋼のコンクリート部は工場製品としてもよい。</p> <p>・耕畜の表面には、「汚水」、「雑排水」等の用途を示す文字入れを行うこと。</p>	<p>8. 給湯設備</p> <p>○ 給湯設備概要</p> <p>・○中央式 (○電気 ○ガス) ○局所式 (○電気 ○ガス)</p> <p>○配管材料 (図面特記分は除く)</p> <p>○鋼管(M) ○外面被覆鋼管 ○水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管</p> <p>○架橋ポリエチレン管 ○ポリブテン管 ○ステンレス鋼管 ()</p> <p>・JISまたはJV (○5K ○10K(図示部分))</p> <p>・口径50A以上のバルブはバタフライバルブ (本体:アルミ製 弁体:ステンレス製) とする。</p> <p>・膨張管及びボイラーへの補給水管の保温は標準仕様書第2編3.1.4の冷水・冷温水管の項による。</p> <p>給湯機器排気管はP S内についても保温を行う。(仕様は隠蔽部排気管に準ずる)</p>	<p>9. 消火設備</p> <p>○ 消火設備概要</p> <p>・○屋内消火栓 ○スプリンクラー (○開放型 ○閉鎖型) ○泡消火 ○不活性ガス消火</p> <p>○連絡送水管 ○連絡給水 屋外消火栓</p> <p>○配管材料 (図面特記分は除く)</p> <p>・一般配管: ○配管用炭素鋼鋼管(白) ○圧力配管用炭素鋼鋼管 (sch-40)</p> <p>・地中配管: ○消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (OSGP-VS ○STPG 370 VS)</p> <p>・屋外露出配管は保温を行う。(標準仕様書第2編3.1.5の給水管の項による)</p> <p>・消火用掃給水栓: (○保温型 ●保温不要)</p> <p>○別途工事 ○本工事</p>	<p>10. 液化石油ガス設備</p> <p>○ ガス設備概要</p> <p>・○液化石油ガス</p> <p>○配管材料 (図面特記分は除く)</p> <p>・一般配管: ○配管用炭素鋼鋼管(白) ○合成樹脂被覆鋼管</p> <p>・地中埋設配管: ○ポリエチレン管</p>	<p>11. 厨房機器設備</p> <p>○ 厨房機器設備概要</p> <p>・図示による。(ただし、寸法は参考とする。)</p> <p>・熱源: ○ガス (○都市ガス ○液化石油ガス) ○電気</p>	<p>12. し尿浄化槽設備</p> <p>○ し尿浄化槽 設備概要</p> <p>・形 式: ○合併槽 () ○小規模合併槽 ()</p> <p>・処理対象人員: 人槽 m³/日</p> <p>・放流水質: BOD ppm以下</p>																																																								
	外 気	屋 内																																																																																					
		一 般 系 統																																																																																					
温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)																																																																																				
夏 期	35.4 °C	49.0 %	28 °C	50 %	°C %																																																																																		
冬 期	2.0 °C	57.9 %	19 °C	40 %	°C %																																																																																		

工事名	堺市産業振興センター本館空調設備改修工事	図面番号	M-02 / 10
図面名	機械設備工事 特記仕様書 (2)	縮尺	
設計番号	設計年月日		A1-NON A3-NON
	R04_2		
株式会社 小川建築設計事務所			

空調機器表(改修)

型式	名称	機器能力			水量 (L/min)	2階			3階				5階		合計	付属品	備考(参考)
		冷房能力		暖房能力 (KW)		金融支援課	倉庫	小ホール	経営支援課会議室 SCK役員室	SCK事務室	経営支援課	倉庫	映写室	控室			
		顕熱(KW)	全熱(KW)														
FCU-12	床置露出形ファンコイルユニット	6.31	7.90	14.18	20.0								1	1	2	公共建築工事準拠仕様・流量調整弁・ボール弁付フレキセット リレーキット・低水量形コイル・予備フィルター・他附属品	FWV12BR
FCUR-4	床置隠蔽形ファンコイルユニット	2.30	3.13	5.00	8.0					2					2	公共建築工事準拠仕様・流量調整弁・ボール弁付フレキセット リレーキット・低水量形コイル・予備フィルター・表示付リモコンスイッチ・他附属品	FWVM46B
FCUR-12	床置隠蔽形ファンコイルユニット	6.31	7.90	14.18	20.0					2		2			4	公共建築工事準拠仕様・流量調整弁・ボール弁付フレキセット リレーキット・低水量形コイル・予備フィルター・表示付リモコンスイッチ・他附属品	FWVM126B
FCULR-6	床置隠蔽ローネーイ形ファンコイルユニット	3.83	4.59	6.74	11.0										3	公共建築工事準拠仕様・流量調整弁・ボール弁付フレキセット リレーキット・低水量形コイル・予備フィルター・表示付リモコンスイッチ・他附属品	FWILM61BR
FCC-6	天吊カセット形ファンコイルユニット	4.93	5.72	9.84	11.0			4							4	公共建築工事準拠仕様・流量調整弁・ボール弁×2・フレキセット リレーキット・ドリップパン組込・予備フィルター・表示付リモコンスイッチ・他附属品	FWHC6DEHDR
FCC-8	天吊カセット形ファンコイルユニット	5.23	6.22	10.11	15.0	8		4							12	公共建築工事準拠仕様・流量調整弁・ボール弁×2・フレキセット リレーキット・ドリップパン組込・予備フィルター・表示付リモコンスイッチ・他附属品	FWHC8DEHDR
FCR-8	天吊埋込形ファンコイルユニット	4.53	6.10	10.11	15.0			2							2	公共建築工事準拠仕様・流量調整弁・ボール弁付フレキセット リレーキット・低水量形コイル・予備フィルター・表示付リモコンスイッチ・他附属品	FWMF8FER

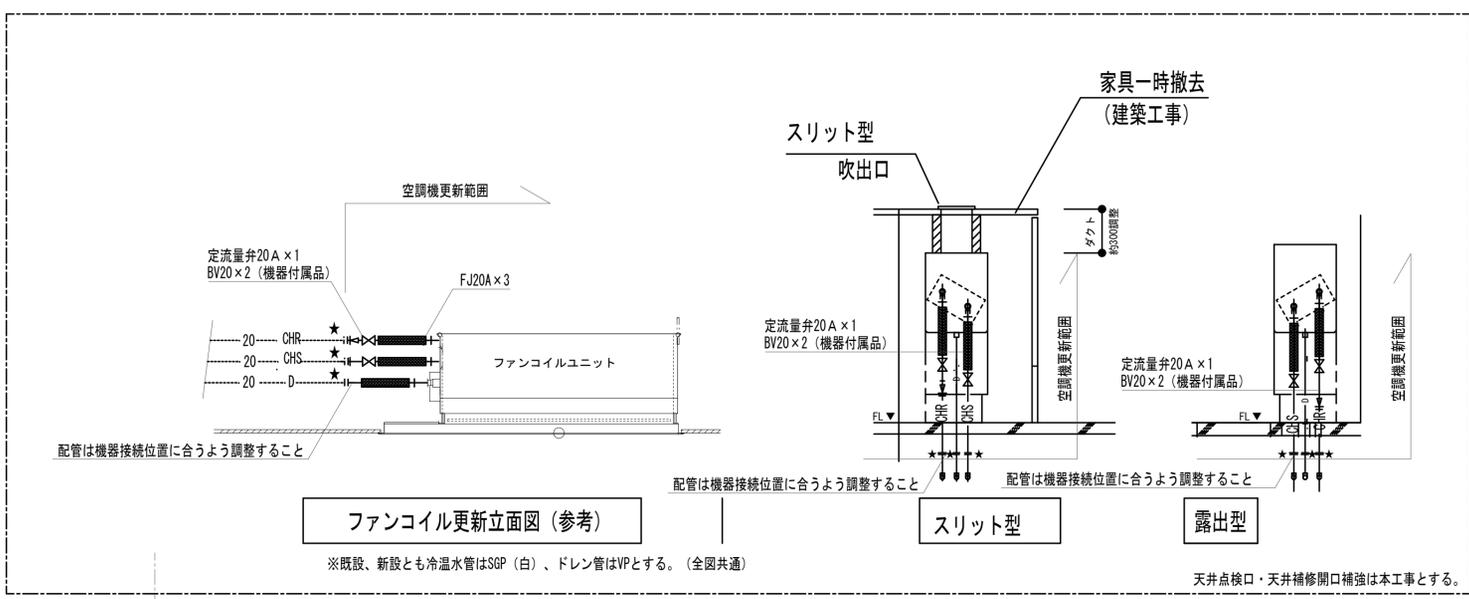
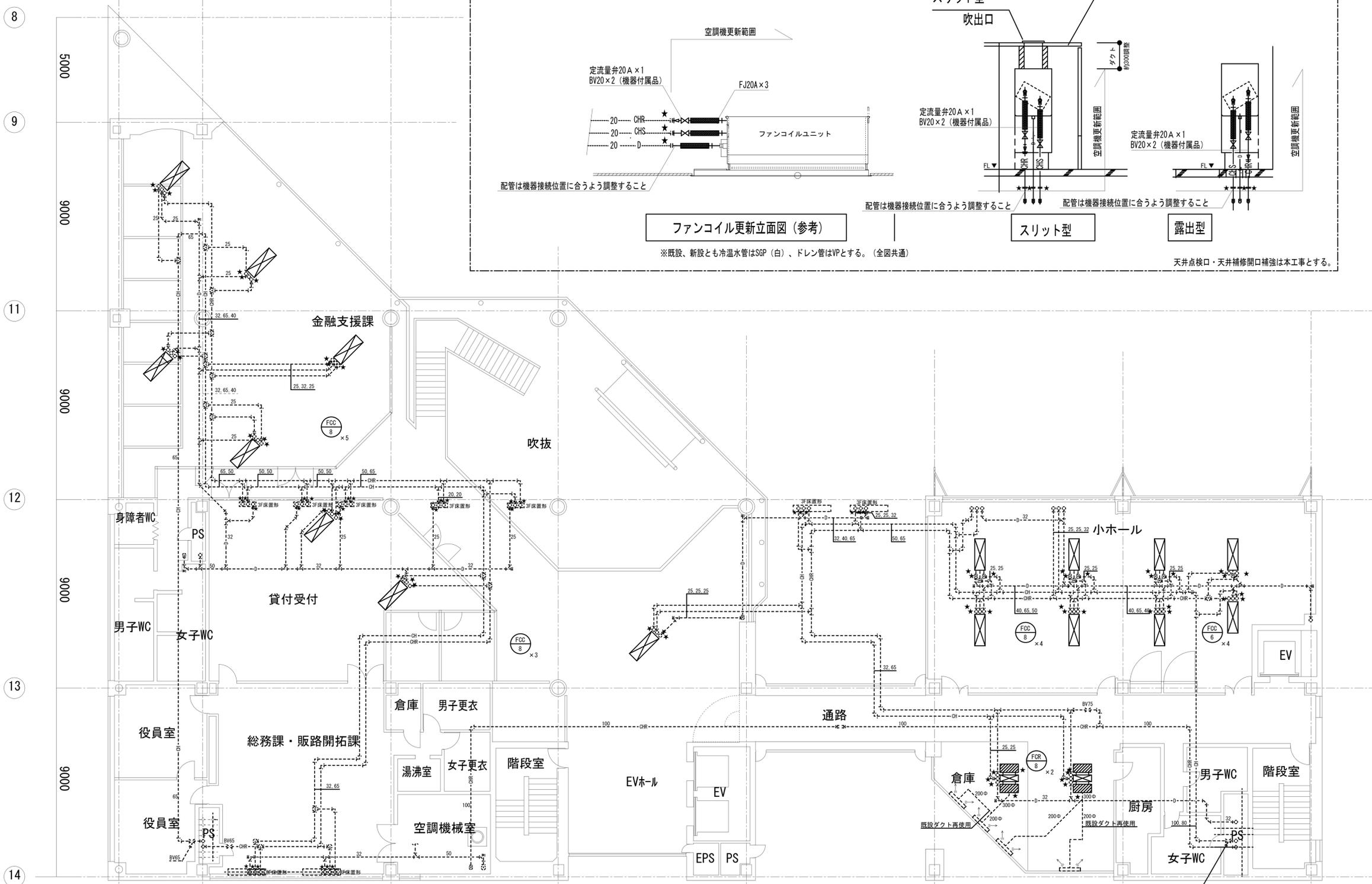
*電動ボール弁は再使用とする。

空調機器表(現況・撤去)

型式	名称	機器能力			水量 (L/min)	2階			3階				5階		合計	備考
		冷房能力		暖房能力 (Kcal/h)		金融支援課	倉庫	小ホール	経営支援課会議室 SCK役員室	SCK事務室	経営支援課	倉庫	映写室	控室		
		顕熱(Kcal/hr)	全熱(Kcal/hr)													
FCU-既12	床置露出形ファンコイルユニット	5,430	6,800	12,200	20.0								1	1	2	FWV126R
FCUR-既4	床置隠蔽形ファンコイルユニット	1,980	2,700	4,300	8.0					2					2	FWVM46B
FCUR-既12	床置隠蔽形ファンコイルユニット	5,430	6,800	12,200	20.0					2		2			4	FWVM126B
FCULR-既6	床置隠蔽ローネーイ形ファンコイルユニット	3,300	3,950	5,800	11.0										3	FWILM61B
FCC-既6	天吊カセット形ファンコイルユニット	3,150	3,750	6,400	11.0			4							4	FWHC67
FCC-既8	天吊カセット形ファンコイルユニット	4,500	5,350	8,700	15.0	8		4							12	FWHC87・KCS801G
FCR-既8	天吊埋込形ファンコイルユニット	3,900	5,250	8,700	15.0			2							2	FWHM86B

*電動ボール弁は再使用とする。

工事名	堺市産業振興センター本館空調設備改修工事	図面番号	M-03/10
図面名	機械設備工事 機器リスト(改修・撤去)	縮尺	A1-NON A3-NON
設計番号	設計年月日 R04_2		
株式会社 小河建築設計事務所			
1級建築士 登録番号 第109031号 柳川 陽文			



ファンコイル更新立面図 (参考)
 ※既設、新設とも冷温水管はSGP (白)、ドレン管はVPとする。(全国共通)

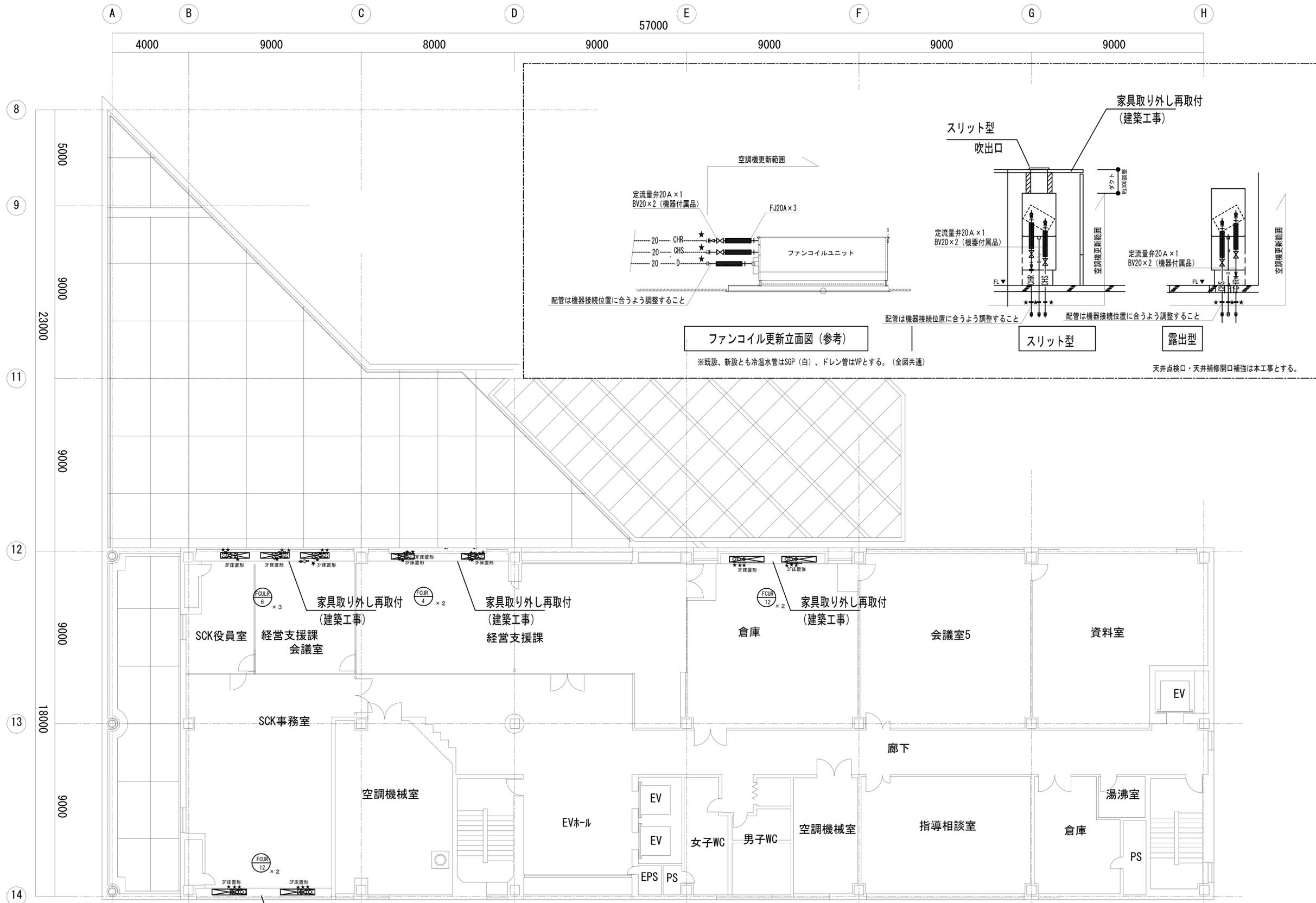
喫茶コーナー (新設)	
SAチャタンBOX	2
BOX 1500 x 200 x 500 (GN25)	
RAチャタンBOX	
BOX 1500 x 350 x 500 (GN25)	

喫茶コーナー (再使用)	
VHS 1000 x 100	4
BOX 1200 x 200 x 500 (GN25)	
SA 550m ³ /h	

喫茶コーナー (再使用)	
HS 1200 x 250	2
BOX 1300 x 400 x 500 (GN25)	
RA 550m ³ /h	

天井点検口・天井補修開口補強は本工事とする。
 * 既設配管に接続を示す。
 - - - 新設配管を示す。
 - - - 既設配管を示す。

工事名	堺市産業振興センター本館空調設備改修工事	図面番号	M-04/10
図面名	2階 空調設備平面図 (改修)	縮尺	A1-1:100 A3-1:200
設計番号	設計年月日 R04_2		
株式会社 小河建築設計事務所			
1級建築士 登録番号 第109031号 柳川 陽文			

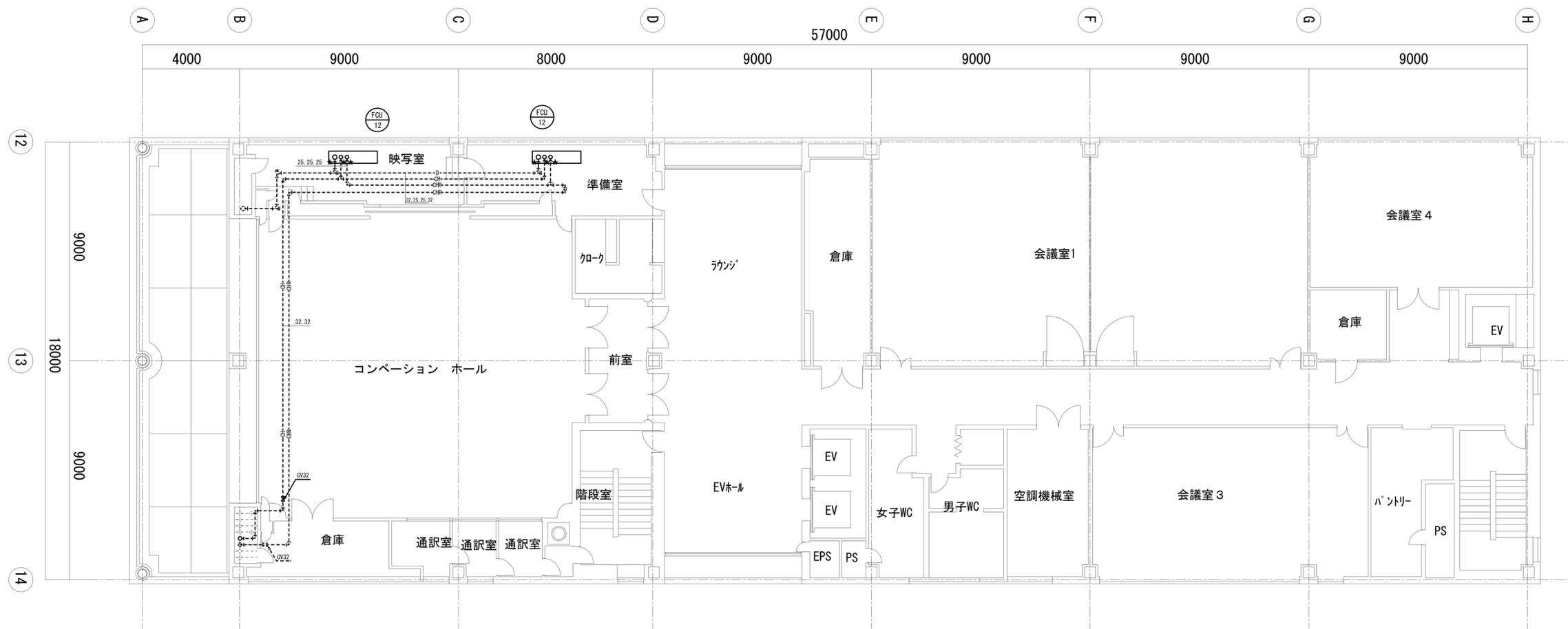
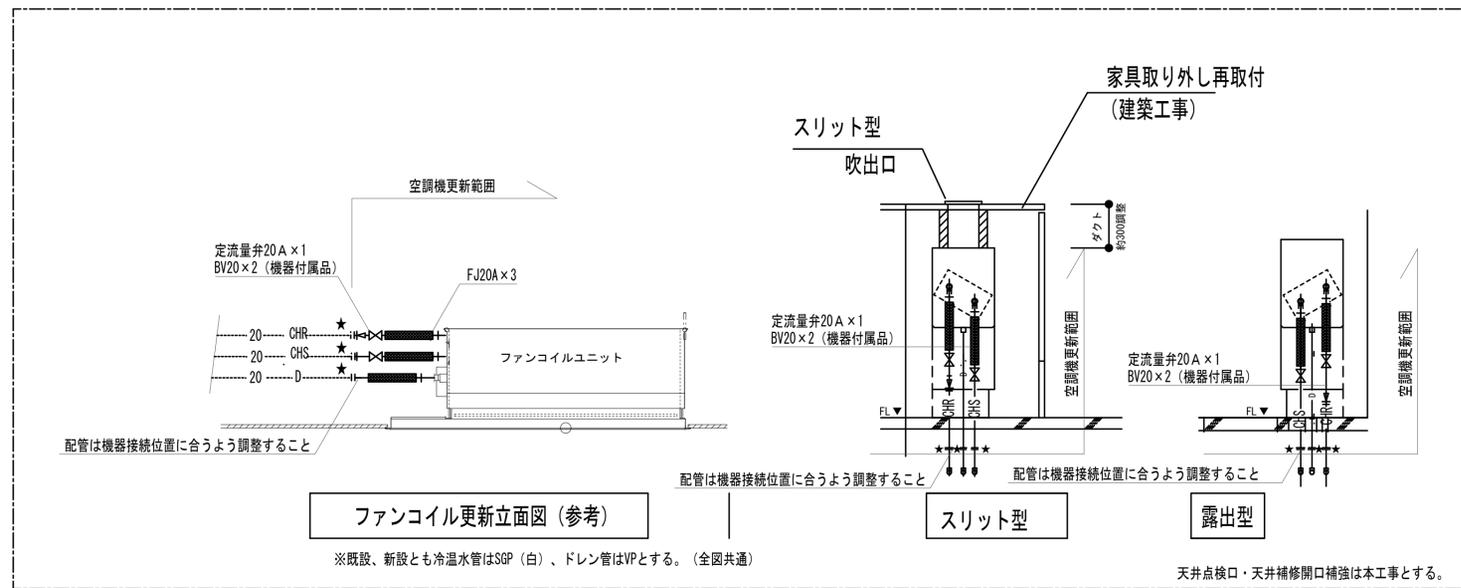


家具取り外し再取付 (建築工事)

- * 既設配管に接続を示す。
- 新設配管を示す。
- 既設配管を示す。

天井点検口・天井補修開口補強は本工事とする。

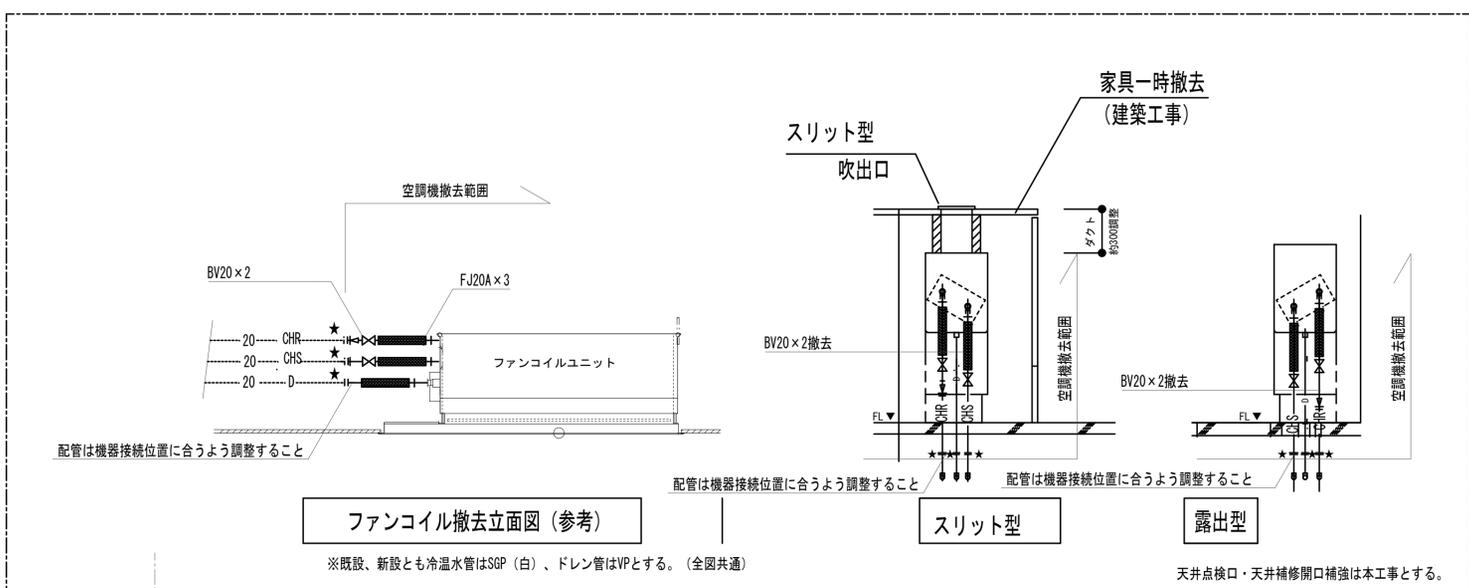
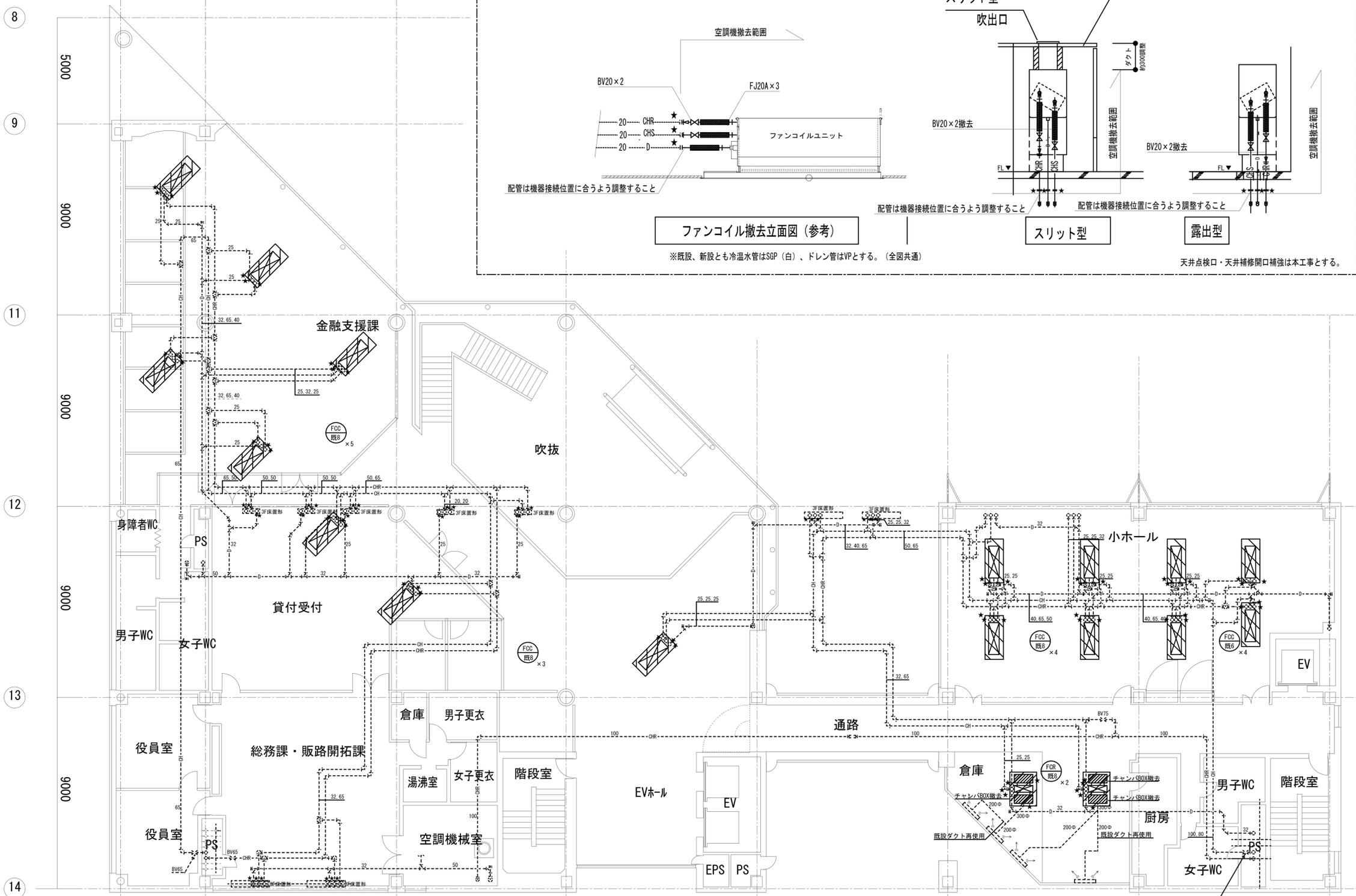
工事名	堺市産業振興センター本館空調設備改修工事	図面番号	M-05/10
図面名	3階空調設備平面図 (改修)	縮尺	A1-1:100 A3-1:200
設計番号	設計年月日 R04_2		



★ 既設配管に接続を示す。
● 新設配管を示す。
--- 既設配管を示す。

天井点検口・天井補修開口補強は本工事とする。

工事名	堺市産業振興センター本館空調設備改修工事	図面番号	M-06/10
図面名	5階 空調設備平面図 (改修)	縮尺	A1-1:100 A3-1:200
設計番号	R04_2	設計年月日	
株式会社 小河建築設計事務所			
1級建築士 登録番号 第109031号 柳川 陽文			



ファンコイル撤去立面図 (参考)

※既設、新設とも冷温水管はSGP (白)、ドレン管はVPとする。(全図共通)

天井点検口・天井補修開口補強は本工事とする。

喫茶コーナー (撤去)	
SA チャン/BOX	2
BOX 1400×230×500 (GW25)	
RA チャン/BOX	
BOX 1400×350×500 (GW25)	

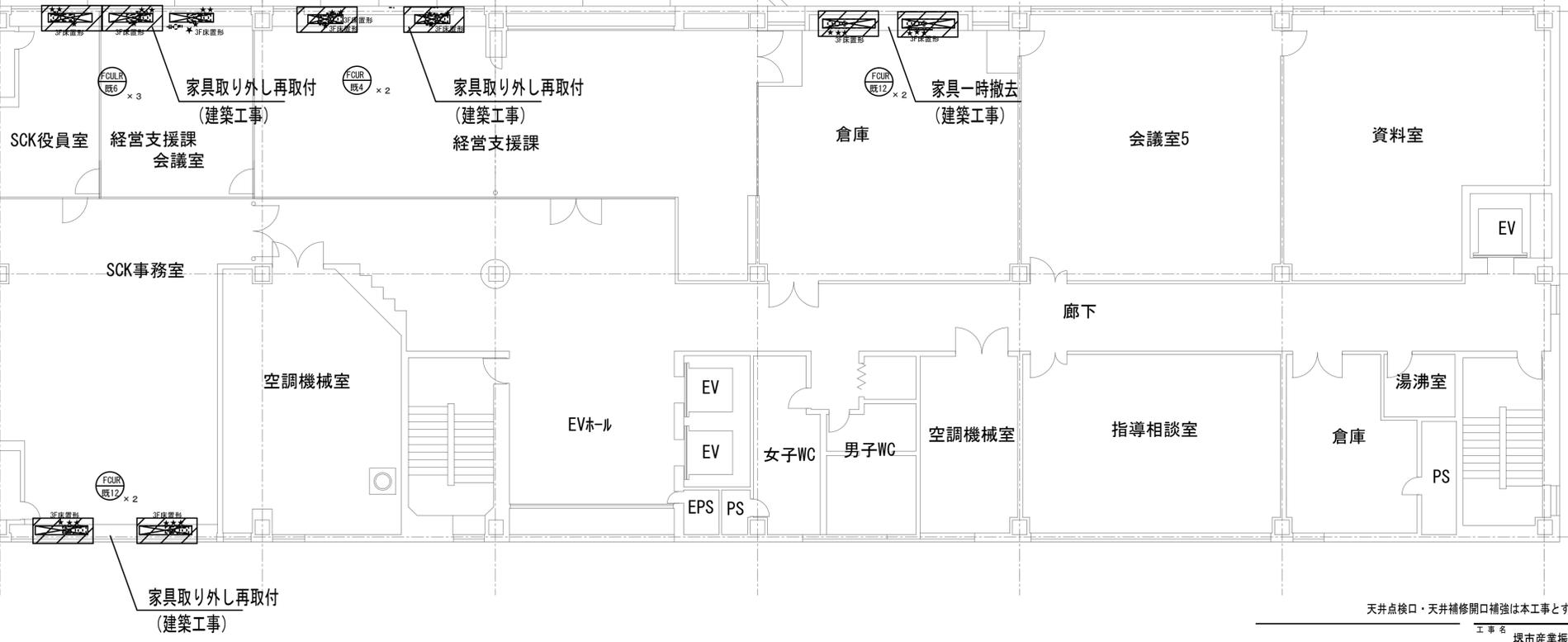
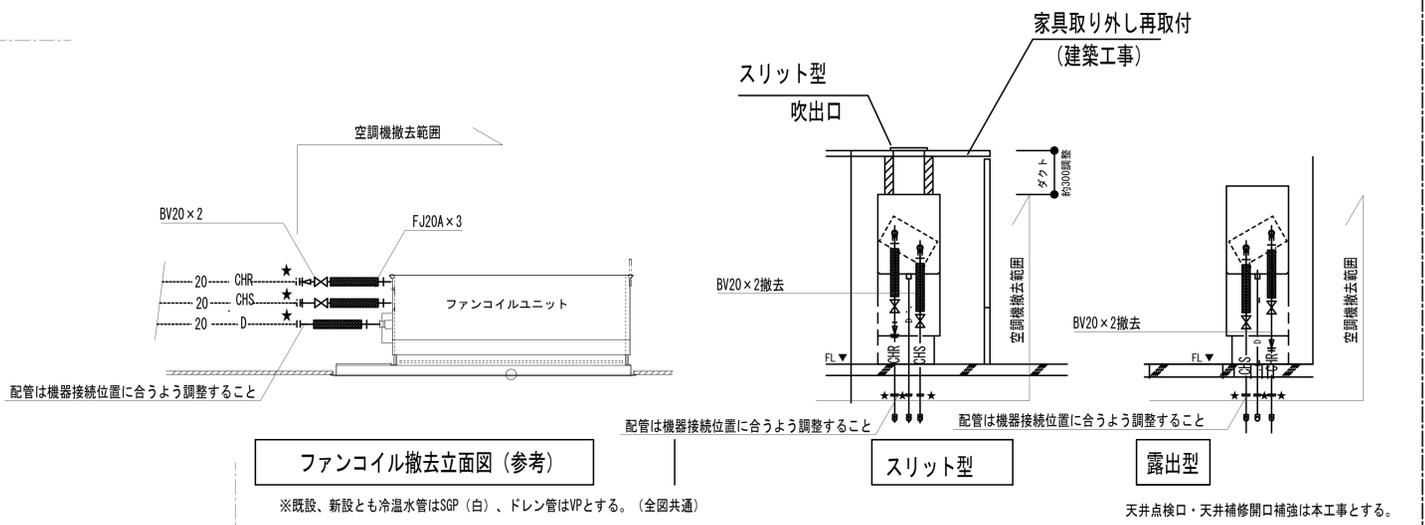
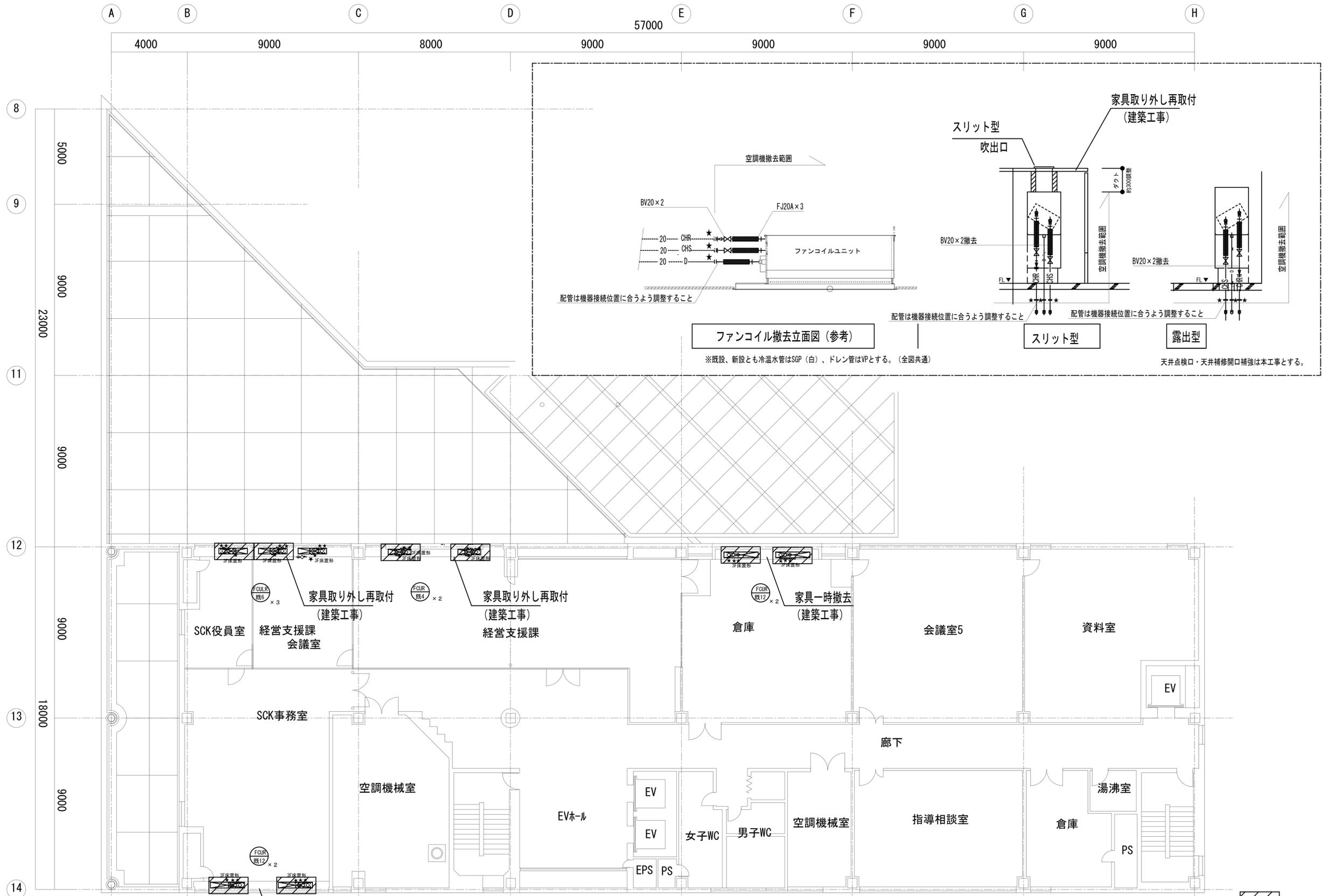
喫茶コーナー (再使用)	
VHS 1000×100	4
BOX 1200×200×500 (GW25)	
SA 550m ³ /h	

喫茶コーナー (再使用)	
HS 1200×250	2
BOX 1300×400×500 (GW25)	
RA 550m ³ /h	

- * 撤去範囲を示す。
- * 既設配管切断を示す。
- * 既設配管を示す。

天井点検口・天井補修開口補強は本工事とする。

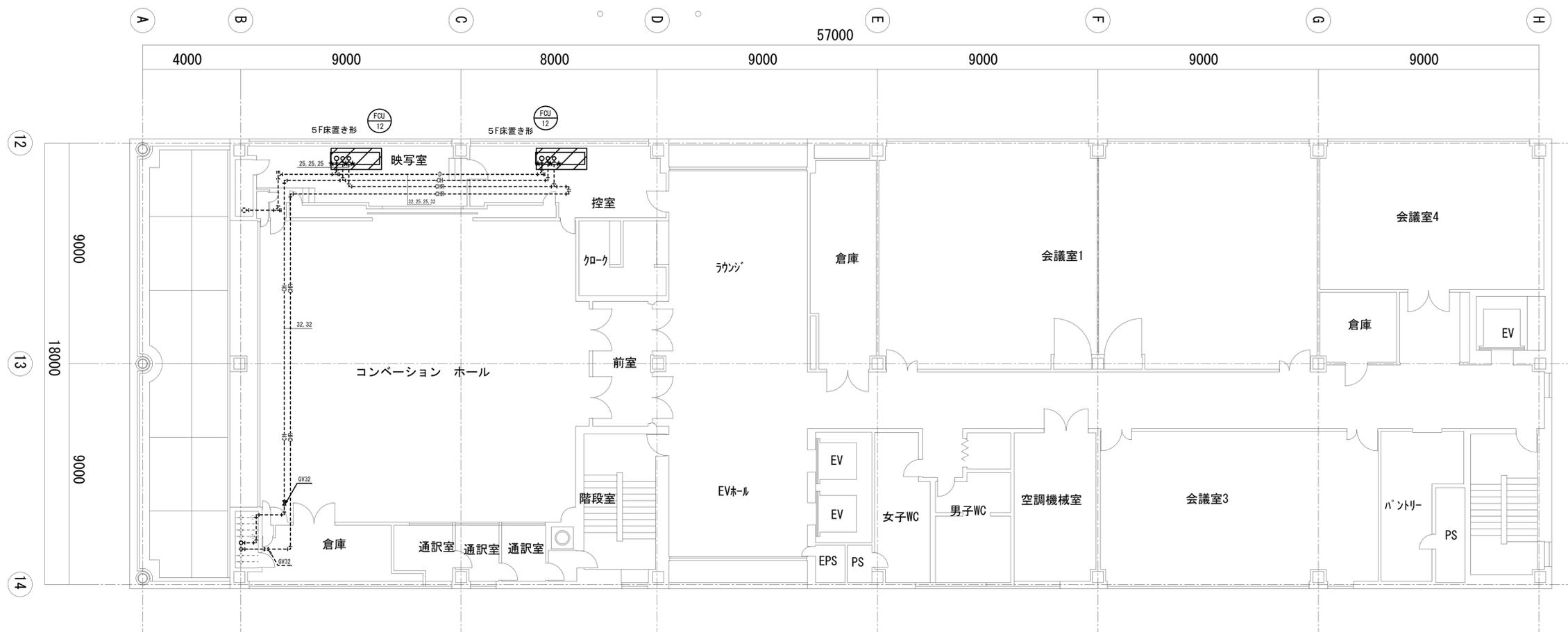
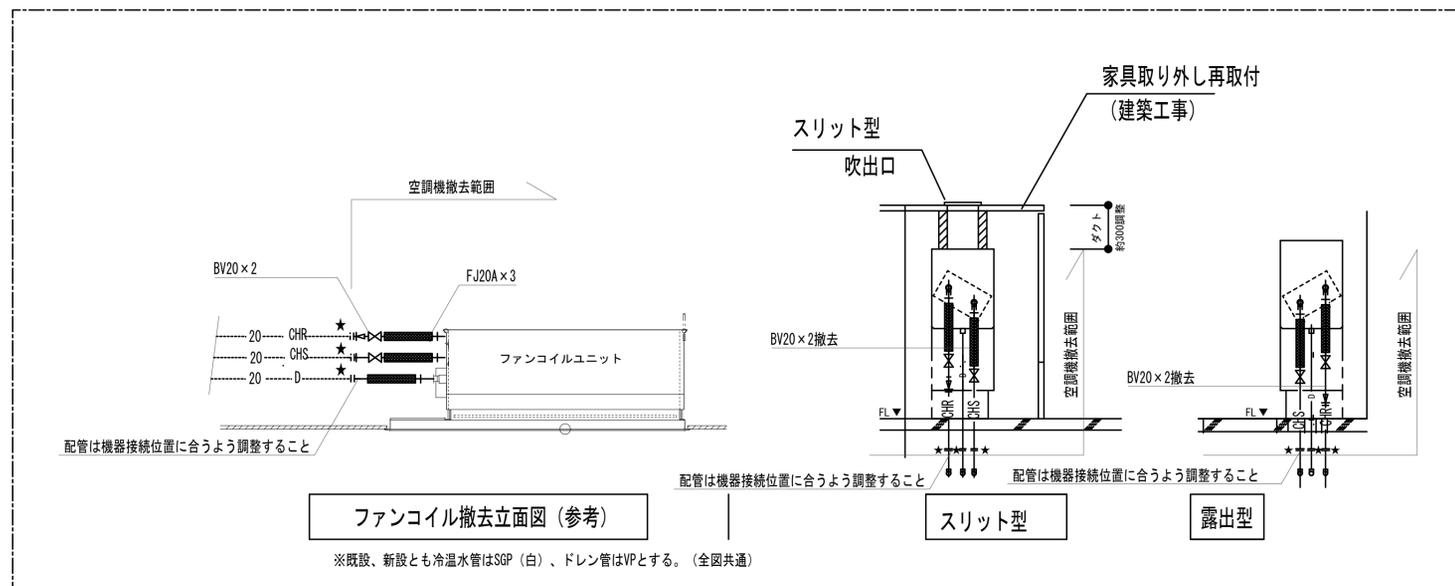
工事名		堺市産業振興センター本館空調設備改修工事	図面番号	M-07/10
図面名		2階 空調設備平面図 (撤去)	縮尺	
設計年月日		設計年月日	A1-1:100	
設計番号		RD4_2	A3-1:200	
株式会社 小河建築設計事務所				
1級建築士 登録番号 第109031号 柳川 陽文				



■ 撤去範囲を示す。
 * 既設配管切断を示す。
 - - - 既設配管を示す。

天井点検口・天井補修開口補強は本工事とする。

工事名	堺市産業振興センター本館空調設備改修工事	図面番号	M-08/10
図面名	3階空調設備平面図(撤去)	縮尺	A1-1:100 A3-1:200
設計番号	R04_2	設計年月日	
株式会社 小河建築設計事務所			
1級建築士 登録番号 第109031号 柳川 陽文			



*撤去範囲を示す。
 *既設配管切断を示す。
 *既設配管を示す。

工事名	堺市産業振興センター本館空調設備改修工事	図面番号	M-09/10
図面名	5階空調設備平面図(撤去)	縮尺	A1-1:100 A3-1:200
設計番号	R04_2	設計年月日	

株式会社 小河建築設計事務所
1級建築士 登録番号 第109031号 柳川 陽文



*電動2方弁は再使用とする。
 *リモコン位置については 発注者と協議の事

工事名	堺市産業振興センター本館空調設備改修工事	図面番号	M-10/10
図面名	2階 空調設備計装平面図 (改修)	縮尺	A1-1:100 A3-1:200
設計番号	R04_2	設計年月日	

株式会社 小河建築設計事務所
 1級建築士 登録番号 第109031号 柳川 陽文